

くじら日記

太地町立博物館から

8月15日、県内に上陸した台風7号の猛威に多くの人が不安を抱き、また被害に遭ったことでしょう。太地町では、一時的に停電や断水、倒木などがあり、生活に支障をきたしました。

町立くじらの博物館のクジラたちはというと、ロープでしっかりと固定した生け簀の中で、台風が過ぎ去るのをじっと待っていました。風が和らいだので、筆者ら飼育員は急ぎ足で生け簀に向かいました。クジラたちはすくなくとも水面から顔を上げ、何事もなかつたかのように近づいてくるのでした。クジラたちの様子に、胸をなでおろしました。

しかし、生け簀がある入り江には、ペットボトルやビニール片、葉や枝などが流入していました。クジラがそれを飲み込んだり、けがをしたりしないようにしなければなりませんでした。

アカアシカツオドリ飛来



太地町立くじらの博物館に台風の影響で流入したごみを清掃する飼育員とアカアシカツオドリの幼鳥—8月16日、同町

台風にあおられ、省内初発見か

翌16日早朝に飼育員がまず取り組む仕事は、入り江に流入してきたこれらのごみの掃除でした。見渡すと、大きな流木に鳥がとまっているのに気づきました。鳥の高さは30センチほどで、鮮やかな水色のクチバシと水かきがある赤い足が特徴的で、今までに見たことがない鳥です。

鳥類に詳しい日本野鳥の会

県文部の副支部長で、くじらの博物館の白水博顧問（元副館長・獣医師）に報せました。見てもうと、形状などからアカアシカツオドリの幼鳥であることがわかりました。見渡すと、大きなの鳥に分類されているとのことです。「この鳥は幼く飛翔力が弱いため、台風7号の風にあおられて南の海域から飛来してきたのかもしれません」と白水顧問はいます。

「和歌山県鳥類目録2018年版」によれば、省内では見つかった記録がなく、今回が初発見の可能性が高いことがわかりました。

原則、第1日曜日に掲載します。

◆
（太地町立くじらの博物館
館長 稲森大樹）

そのうち飛び去るだろうと見守っていましたが、発見から2日経つても、入り江から離れようとしません。餌を食べている様子がなく、弱っているように見えました。そのため、18日に保護し、新宮保健所に引き渡しました。保健所では、アジのすり身をやつたり保養させたりしたのですが、残念ながら19日に命を落としました。

アカアシカツオドリは、鯨類を扱うくじらの博物館が専門とする生き物ではなく、命を救うことはできませんでしたが、今後、野生動物の保護・保全に広く対応できるようになりたいと思いました。

貴重なアカアシカツオドリの遺骸は、県立自然博物館が標本として残す予定です。（太地町立くじらの博物館
館長 稲森大樹）